


健康登山59:自然歩道30 (柘植駅～加太駅)

コース	京都駅 柘植駅 2.6km/40 峠 1.7km/44 0.6km/13	合流点 0.9km/16 不動滝 0.3m/8 2.5km/43	奥余野登山口 1.1km/50 峠 2.8km/63 加太駅 京都駅	ゾロ峠 板屋
水平距離	14.8km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	17.1km			
累計高低差	登り770m、下り864m			
標準歩行時間	5:42			
実績歩行時間	5:13			



山行報告

山行日 2010・10・7(木) 天候 快晴 参加者 7名

行動 京都駅7:41 柘植駅9:11 自然歩道合流点9:46 奥余野登山口10:05 ゾロ峠10:47 加太不動滝(昼食)12:04~12:47 加太川右俣登り口13:09 峠13:48 板屋14:39 蛇谷川分岐14:52 (車道経由) 加太駅15:24~15:55 京都駅17:27

記録

快晴に誘われて南鈴鹿の東海自然歩道を柘植駅から加太駅まで歩いた。柘植駅はJR草津線と関西線が接続するターミナル駅だがカード類が使えないので要注意、駅舎も昔のままで、ここでは時間がゆったりと流れている。柘植駅は東海自然歩道の山ノ辺ルートとの終点である。霊山を背にして右手に旗山を見ながら2.5km歩くと自然歩道の本線ルートと合流する。東へ少し歩き正面に油日山系の忍者岳が見えるとすぐに奥余野登山口に到着。トイレのある休憩所でここまでは車が入れる。先月はここから北へ進み油日岳に登ったが、今回はゾロ峠へ向って東へ進んだ。ここから山道らしくなり250m登って今回ルートの最高地点ゾロ峠に着いた。ゾロ峠は南北に境界尾根道、東西に東海自然歩道が通っている。ゾロ峠から東へ進み、加太川左俣を下るのが階段がつけられた急坂がたくさんあり、注意してゆっくり歩いた。雨天時には歩きたくない丸木橋を何度も渡り1時間ほどでようやく不動滝に着いた。集合写真を撮った後、広場がないので分散して昼食をした。本日本定の歩行距離は16.9km、ここまで6.4km、後10.5kmで峠を二つ越さねばならない。食後、出発前に相談して時間によっては二つ目の峠は割愛することにした。不動滝から少し下り、鈴鹿峠17kmの道標に従い加太川右俣を登った。この谷沿い道は歩きやすく何度か橋を渡ったが40分で峠に着いた。峠からの急坂を下りしばらく歩くと出雲谷川沿いの林道板屋線に出る。林道を歩き舗装道路(板屋)に出た。時間は14:39、予定通り計画を修正して蛇谷川分岐で東海自然歩道と別れ、舗装道路を3km歩いてJR加太駅へ向った。加太駅はローカル色満点の無人駅で、南に来月予定の錫杖岳が聳えていた。



自然歩道（柘植駅～加太駅）



①出発点柘植駅  
09:09

②自然歩道  
合流点  
09:46



③奥余野登山口  
正面は忍者岳  
10:00

④ゾロ峠の登り  
10:44



⑤ゾロ峠  
分岐の道標  
10:59

⑥丸木橋の一つ  
11:19



⑦加太不動滝  
12:07

⑧加太川右俣  
峠へ向う  
13:26



⑨林道板屋線を  
下る  
14:04

⑩加太駅から  
錫杖岳  
15:29



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：柘植駅～加太不動滝～加太駅）

参考資料 ホームページ他より

**加太**：「鹿伏兔」の字を当てる場合もある。  
大和道(大和街道、現国道25号線)に沿って開けたところ。良質の杉、檜を産出する。

**加太越**：伊賀市と亀山市の間にある峠。古来より人の往来があった。  
難所の一つで、古くから山賊の栖かといわれていた。  
古代は「伊賀」から「伊勢」に抜ける主要路で大和道とよばれ、平安時代に鈴鹿峠が開かれるまでは大和地方と東国(岐阜、愛知、長野)を結ぶ幹線道路であった。

【壬申の乱(672)】6月22日大海人皇子(天武天皇)一行は后及び婦女子十余名を含む二十余名が吉野から尾張に向かうときに通った。(日本書記、大山を越え...)  
6月25日正午頃には、柘植から加太越えで関に至っていて、かなりの強行軍であったことが予想されています。柘植で高市皇子と合流、更に大津皇子と合流して、500名となり、鈴鹿の関所を抑えることになる。

【源義経】も平家討伐で元暦元年(1184)京に向かう折に通っています。

【本能寺の変】天正10年(1582)のとき、徳川家康が、危機を避け、堺から三河へ向かう折、伊賀、甲賀衆式百名余が馳せ参じ、家康一行34名を護衛、道案内をして山中を難なくこえたという。この時の頭領は「服部半蔵」で、功績を認められ家康に召し抱えられている。

壬申の乱古戦場：東海自然歩道関西南北ルート合流地点から近くのガードレールに、ペンキで書きこまれている。

この近辺は、「倉歴の戦い」があったところで、倉歴部は柘植から甲賀へ抜ける道であり余野から油日にかけて激しい戦いが行われた。

7月5日、近江朝方の別将、「田辺小隅」が夜襲をかけ、「金」の合言葉を用いて戦い返事のないものは切りつけたため、大海人軍は混乱し敗退した。

翌6日「田辺小隅」は更に進撃して菟萩野(伊賀上野辺り)の大海人軍の駐屯地を襲うと急行したが、3000の兵を持つ將軍「秦熊」が迎え撃ち、田辺小隅は敗走した。

ゾロ峠：道標には「ぞろぞろ峠」になっている。

前記の「加太越」で、貴人や臣下など、大勢の人が通った故事によるものは不明。

鹿伏兎城跡：中世の城。三重県指定史跡。(牛谷城 鹿伏兎城。別名白鷹城)  
牛谷山(263m)山頂に、土塁、主郭、曲輪、石垣、井戸など残っている。

室町時代の伊勢国の豪族、亀山関氏は鈴鹿関に興り、桓武平氏を称した。  
亀山関氏の五男「盛政」が正平 22 年(1367)5 人の子に領地を分割。  
四男「盛宗」が、加太谷を領し、地名をとって「鹿伏兎讃岐守」を名乗り、  
鹿伏兎氏の祖となる。  
盛宗の子、「定俊」が牛谷山に築いたのが「牛谷城」。  
定俊の 6 世孫「定好」が、城を大改築して「鹿伏兎城」と改めた。  
定好の子、「定長」が天文 11 年(154)将軍、足利義春に白鷹を献じ「白鷹城」  
の称を給わっている。

戦乱の時代になり、永禄 10 年(1567)に始まった信長の「伊賀侵攻」に  
「定長」は宗家の「関氏」と行動を共にし、信長軍に抗している。  
「姉川の戦い」元亀元年(1570)では、定長の子、「定秀」は浅井長政に助勢  
して討ち死にしている。  
更に、反信長で蜂起した「長島一揆(1570~74)」に、定長の孫「盛氏」「六郎」  
の兄弟も加勢して戦死。ここで鹿伏兎氏嫡流は滅亡します。

信長の死後、羽柴秀吉と柴田勝家の後継者争いで、柴田軍の神戸信方に与し  
天正 11 年(1583)秀吉連合軍に攻められ鹿伏兎城は落城。  
「定秀」の弟、「定義」京に逃れて客死、200 年の鹿伏兎氏の栄華は終焉し  
た。

【神福寺】臨濟宗東福寺派。本尊：薬師如来(伝・行基作)鹿伏兎氏の居館といわれ、  
今は鹿伏兎氏の菩提寺で、累代の墓が残っている。  
JR 加太駅西の踏切を渡ると直ぐに神福寺です。  
その裏山が城山の牛谷山で、城跡には本堂西側から登れる。  
墓地の横にある焼却炉から登る。25 分ほどで主郭に出られる様です。

JR 中在家信号場：関西本線加太駅から柘植方面は 25/100 パーミルの上がり勾配で、  
加太駅から 4,6 km 柘植寄りに、スイッチバック式の信号場がある。  
1923 年(昭 3)に敷設され、S L 列車の行き違い、待ち合わせをするための退  
避線で信号機などが設けられている。1998 年に配線を改め、2006 年 3 月の  
改正ダイヤから列車交換がなくなり、折り返し線関係の信号機は停止されて  
いる。  
一部の時間帯では使用されている。